



2026年8月期 第2四半期（中間期）決算短信〔IFRS〕（連結）

2026年4月14日

上場会社名 プリモグローバルホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 367A URL <https://www.primoghd.co.jp/ja/index.html>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 澤野 直樹
 問合せ先責任者（役職名） 管理管掌執行役員（氏名） 佐田 大輔（TEL）03(6226)6261
 半期報告書提出予定日 2026年4月14日 配当支払開始予定日 2026年5月29日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年8月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年9月1日～2026年2月28日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上収益		営業利益		税引前利益		中間利益		親会社の所有者に 帰属する中間利益		中間包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期中間期	15,391	14.8	2,236	41.0	2,073	53.8	1,466	39.8	1,466	39.8	2,881	136.0
2025年8月期中間期	13,404	—	1,585	—	1,348	—	1,048	—	1,048	—	1,221	—

	基本的1株当たり 中間利益		希薄化後1株当たり 中間利益	
	円	銭	円	銭
2026年8月期中間期	167	67	159	91
2025年8月期中間期	119	91	119	91

（注）2025年8月期中間期の希薄化後1株当たり中間利益については、新株予約権は存在するものの、権利確定が上場条件付きとなっているため希薄化効果の計算対象外ですので、基本的1株当たり中間利益と同額としております。

（2）連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者帰属 持分比率	1株当たり親会社 所有者帰属持分
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
2026年8月期中間期	48,290	20,040	20,040	41.4	2,284.98
2025年8月期	45,949	18,052	18,052	39.2	2,063.58

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年8月期	—	0.00	—	105.00	105.00
2026年8月期	—	60.00	—	—	—
2026年8月期（予想）	—	—	—	60.00	120.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年8月期の連結業績予想（2025年9月1日～2026年8月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,000	7.1	3,650	16.5	3,200	17.1	2,170	21.5	2,170	21.5	248.08

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 1社(社名) Primo Diamond Malaysia Sdn. Bhd. 、除外 1社(社名) -

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(中間期)

2026年8月期中間期	8,747,143株	2025年8月期	8,747,143株
2026年8月期中間期	1株	2025年8月期	1株
2026年8月期中間期	8,747,143株	2025年8月期中間期	8,747,143株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- (1) 当社グループは、国際会計基準を適用しております。
(2) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
(3) 2026年4月14日に当社ウェブサイト(<https://www.primoghd.co.jp/ir/>)に決算説明資料を掲載予定です。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 要約中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 要約中間連結財政状態計算書	4
(2) 要約中間連結損益計算書	6
(3) 要約中間連結包括利益計算書	7
(4) 要約中間連結持分変動計算書	8
(5) 要約中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(6) 要約中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(適用される財務報告の枠組み)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(セグメント情報)	11

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 当期の経営成績の概況

当中間連結会計期間（2025年9月1日～2026年2月28日）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費に持ち直しの動きがみられ、全体として緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、物価動向や米国の通商政策および中東情勢をめぐる動向等が個人消費に及ぼす影響については、引き続き注視が必要な状況にあります。

このような事業環境の下、当中間連結会計期間における当社グループの連結業績は、売上収益15,391百万円（前年同期比14.8%増）、営業利益2,236百万円（前年同期比41.0%増）、親会社の所有者に帰属する中間利益1,466百万円（前年同期比39.8%増）と、大幅な増収増益となりました。一方で、当期におけるプラチナ等の貴金属価格の高騰を受けて、適時商品価格の見直しを進めているものの、これら貴金属価格の上昇が商品価格の段階的な見直しに先行する局面においては、売上総利益の低下要因となりました。当社グループでは、引き続き商品価格の適正化および原価低減の取り組みを進めるとともに、販売力の強化を通じて売上総利益の改善に努めてまいります。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(国内事業)

国内事業の当中間連結会計期間における売上収益は10,015百万円（前年同期比14.2%増）、セグメント利益は1,744百万円（前年同期比19.6%増）と、大幅な増収増益となりました。商品価格の見直しによる客単価の上昇や、マーケティング施策の奏功による客数の増加により売上収益が伸長し、「LAZARE DIAMOND（ラザールダイヤモンド）」ブランドについては、全店舗において過去最高の売上収益となりました。

当第2四半期においては、AIを活用した教育支援システムを独自開発し、個人の経験に依存していた接客スキルを平準化するとともに、効率的に接客力を磨くことができる体制を確立しました。また、子育てサポート企業としての人的資本基盤への評価である「くるみん認定」を、2025年度の新基準において再取得（2018年以来2回目）しております。

今後の事業展開については、引き続きブランド価値および顧客体験の更なる向上に努めてまいります。広告媒体や表現を精査し、お客様に正しくブランドをご理解いただくとともに、ご来店されたお客様にはブランドの世界観を表現した店づくりと、人財教育に基づく高い接客サービスを体感していただきます。また、商圈や購買行動の変化に伴い、より集客力のあるエリアや有力商業施設内への移転、および店舗設備の改装を進めてまいります。

商品面では、「I-PRIMO（アイプリモ）」の婚約指輪に使用するダイヤモンドについて、当社グループが求める高い品質基準をプロダクション工程から監修した「PRIMO QUALITY DIAMOND」や、独自の「着け心地メソッド」を採用した軽やかな着け心地の商品、独自組成の新素材である「パールブラウンゴールド」を使用した商品等を展開し、多くのお客様にご支持いただいております。これからもオリジナリティのある付加価値商品による差別化に取り組むとともに、「一生の記念となるお買い物」のブランドとしてお客様に長く愛されるよう、アニバーサリージュエリーの拡充も進めてまいります。

(海外事業)

海外事業の売上収益は5,377百万円（前年同期比15.9%増）、セグメント利益は492百万円（前年同期比284.8%増）と、大幅な増収増益となりました。海外事業比率は、売上収益において34.9%、セグメント利益において22.0%となりました。中国本土における不動産市場の停滞に伴う景気低迷や日中関係の問題は依然として継続しておりますが、現地におけるマーケティング施策の精査や営業体制の強化、2025年11月の鄭州市への新規出店等により、業績は引き続き伸長しております。

当第2四半期においては、2026年2月に香港の「I-PRIMO Causeway Bay Lee Garden Store」の移転改装を実施したほか、2026年4月に予定する「I-PRIMO」の中国本土（北京市・杭州市）出店、「K.UNO」の台湾（台中市）出店の準備を進めております。また、新規進出地域であるマレーシアにおいても「I-PRIMO」1号店の準備を計画通り進めており、シンガポールに続く東南アジア市場での展開を拡大してまいります。

今後の事業展開については、日本で培ったブランド・商品・顧客サービスを活かしつつ、①各市場におけるブランド認知および価値の向上、②各市場の顧客ニーズに応じた商品ラインナップ・サービスの提供および販売・価格・マーケティング戦略の実行、③中国本土や東南アジアといった出店余地のある市場における出店の推進、④各市場におけるローカル人財のグローバル登用といった取り組みを進めてまいります。

(2) 当期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末における資産、負債及び資本の状況は次のとおりです。

流動資産は13,278百万円となり前連結会計年度末に比べ765百万円増加致しました。これは主に、受注高の増加にともない棚卸資産が621百万円増加したことによるものであります。

非流動資産は35,012百万円となり前連結会計年度末に比べ1,574百万円増加致しました。これは主に為替換算の影響によりのれんが900百万円、無形資産が423百万円増加したことによるものです。

この結果、総資産は48,290百万円となり前連結会計年度末に比べ2,340百万円増加致しました。

また、流動負債は10,753百万円となり前連結会計年度末に比べ746百万円増加致しました。これは主に、仕入高の増加にともない営業債務及びその他の債務が1,044百万円増加した一方、従業員への賞与支給によりその他の流動負債が479百万円減少したことによるものであります。

非流動負債は17,496百万円となり前連結会計年度末に比べ393百万円減少致しました。これは主に、返済等により借入金502百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債は合計28,250百万円となり前連結会計年度末に比べ353百万円増加致しました。

資本は合計20,040百万円となり前連結会計年度末に比べ1,987百万円増加致しました。これは剰余金の配当918百万円を実施した一方、中間利益1,466百万円計上したことにより利益剰余金が548百万円、在外営業体の換算差額の発生によりその他の資本の構成要素が1,438百万円増加したことによるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べ289百万円増加し、4,032百万円となりました。

また、当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、獲得した資金は2,763百万円(前年同期は1,790百万円の獲得)となりました。

これは主に、税引前中間利益が2,073百万円(前年同期は1,348百万円)、減価償却費及び償却費の計上が965百万円(前年同期は1,102百万円)、営業債務及びその他の債務の増加が967百万円(前年同期は217百万円の減少)、法人所得税の支払額が487百万円(前年同期は458百万円)あったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は76百万円(前年同期は92百万円の獲得)となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出が86百万円(前年同期は100百万円)、敷金及び保証金の差入による支出が18百万円(前年同期は8百万円)、敷金及び保証金の回収による収入が42百万円(前年同期は235百万円)あったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は2,453百万円(前年同期は2,454百万円の使用)となりました。

これは、長期借入金の返済による支出が500百万円(前年同期は1,305百万円)、配当金の支払額が910百万円(前年同期は該当なし)、リース負債の返済による支出が1,043百万円(前年同期は1,149百万円)あったことによるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその達成を約束する趣旨のものではありません。

2025年10月15日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 要約中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約中間連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当中間連結会計期間 (2026年2月28日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	3,743	4,032
営業債権及びその他の債権	2,087	1,737
棚卸資産	6,630	7,251
その他の流動資産	50	255
流動資産合計	12,512	13,278
非流動資産		
有形固定資産	1,354	1,363
のれん	16,491	17,391
無形資産	10,029	10,452
使用権資産	3,322	3,528
持分法で会計処理されている投資	105	107
その他の金融資産	1,351	1,336
繰延税金資産	780	822
その他の非流動資産	1	9
非流動資産合計	33,437	35,012
資産合計	45,949	48,290

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当中間連結会計期間 (2026年2月28日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	1,778	2,823
契約負債	3,602	3,650
借入金	996	996
未払法人所得税等	510	617
リース負債	1,684	1,710
引当金	13	12
その他の流動負債	1,423	943
流動負債合計	10,007	10,753
非流動負債		
借入金	12,447	11,945
リース負債	2,945	2,905
引当金	200	204
繰延税金負債	2,282	2,427
その他の非流動負債	13	13
非流動負債合計	17,889	17,496
負債合計	27,896	28,250
資本		
資本金	100	100
資本剰余金	6,860	6,860
利益剰余金	6,278	6,826
その他の資本の構成要素	4,813	6,252
親会社の所有者に帰属する持分合計	18,052	20,040
資本合計	18,052	20,040
負債及び資本合計	45,949	48,290

(2) 要約中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自2024年9月1日 至2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自2025年9月1日 至2026年2月28日)
売上収益	13,404	15,391
売上原価	4,753	5,922
売上総利益	8,650	9,469
販売費及び一般管理費	7,082	7,321
その他の収益	97	90
その他の費用	79	2
営業利益	1,585	2,236
金融収益	3	92
金融費用	232	254
持分法による投資損失	9	1
税引前中間利益	1,348	2,073
法人所得税費用	299	606
中間利益	1,048	1,466
中間利益の帰属		
親会社の所有者	1,048	1,466
中間利益	1,048	1,466
1株当たり中間利益		
基本的1株当たり中間利益(円)	119.91	167.67
希薄化後1株当たり中間利益(円)	119.91	159.91

(3) 要約中間連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自2024年9月1日 至2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自2025年9月1日 至2026年2月28日)
中間利益	1,048	1,466
その他の包括利益		
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	172	1,414
小計	172	1,414
税引後その他の包括利益	172	1,414
中間包括利益	1,221	2,881
中間包括利益の帰属		
親会社の所有者	1,221	2,881
中間包括利益	1,221	2,881

(4) 要約中間連結持分変動計算書

前中間連結会計期間(自2024年9月1日 至2025年2月28日)

(単位：百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分				合計	資本 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	その他の資本 の構成要素		
2024年9月1日残高	100	8,647	2,705	4,248	15,700	15,700
中間利益			1,048		1,048	1,048
その他の包括利益				172	172	172
中間包括利益	—	—	1,048	172	1,221	1,221
欠損填補		△1,786	1,786			
株式報酬				10	10	10
所有者との取引額等合計	—	△1,786	1,786	10	10	10
2025年2月28日残高	100	6,860	5,540	4,431	16,932	16,932

当中間連結会計期間(自2025年9月1日 至2026年2月28日)

(単位：百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分				合計	資本 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	その他の資本 の構成要素		
2025年9月1日残高	100	6,860	6,278	4,813	18,052	18,052
中間利益			1,466		1,466	1,466
その他の包括利益				1,414	1,414	1,414
中間包括利益	—	—	1,466	1,414	2,881	2,881
株式報酬				24	24	24
剰余金の配当			△918		△918	△918
所有者との取引額等合計	—	—	△918	24	△894	△894
2026年2月28日残高	100	6,860	6,826	6,252	20,040	20,040

(5) 要約中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自2024年9月1日 至2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自2025年9月1日 至2026年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間利益	1,348	2,073
減価償却費及び償却費	1,102	965
減損損失	1	—
受取利息	△3	△6
支払利息	229	250
持分法による投資損益(△は益)	9	1
棚卸資産の増減額(△は増加)	△240	△434
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	△63	189
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	△217	967
契約負債の増減額(△は減少)	511	△65
その他	△237	△474
小計	2,439	3,466
利息の受取額	3	6
利息の支払額	△226	△222
法人所得税の支払額	△458	△487
法人所得税の還付額	33	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,790	2,763
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△100	△86
無形資産の取得による支出	△33	△11
敷金及び保証金の差入による支出	△8	△18
敷金及び保証金の回収による収入	235	42
その他	—	△2
投資活動によるキャッシュ・フロー	92	△76
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△1,305	△500
配当金の支払額	—	△910
リース負債の返済による支出	△1,149	△1,043
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,454	△2,453
現金及び現金同等物に係る換算差額	19	56
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△551	289
現金及び現金同等物の期首残高	3,199	3,743
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,648	4,032

(6) 要約中間連結財務諸表に関する注記事項

(適用される財務報告の枠組み)

本決算短信で開示している当社グループの要約中間連結財務諸表（要約中間連結損益計算書、要約中間連結包括利益計算書、要約中間連結財政状態計算書、要約中間連結持分変動計算書、要約中間連結キャッシュ・フロー計算書及び注記）は、国際会計基準第34号「期中財務報告」で求められる開示項目及び注記の一部を省略しております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社の事業セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分を決定し、また業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっている事業セグメントを基礎に決定しております。

なお、報告セグメントの決定に際して集約された事業セグメントはありません。

当社グループは、主にジュエリーを販売しており、国内と海外の各市場の特性に応じた包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。したがって、当社グループの事業は、地域別に構成されており、「国内事業」と「海外事業」を報告セグメントとしております。

「国内事業」は、プリモ・ジャパン株式会社が国内において事業を営んでおり、「海外事業」は、海外子会社5社が中華圏(中国、台湾、香港)、シンガポール及びマレーシアにおいて事業を営んでおります。

(2) 報告セグメントに関する情報

報告セグメントの会計方針は、当社グループの会計方針と同一であります。

また、報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。なお、セグメント間の内部取引における価額は、独立企業間価格に基づいております。

(表示方法の変更に関する事項)

前連結会計年度より、内部管理上の指標の見直しを行ったことにより、前中間連結会計期間まで「減価償却費及び償却費」から控除していた使用権資産に係る減価償却費を、当中間連結会計期間より「減価償却費及び償却費」に含めております。また、「資産除去費用」は重要性が乏しいため記載を省略しております。

なお、前中間連結会計期間の情報については、変更後の方法により作成したものを記載しております。

報告セグメントの売上収益及び利益に関する情報は、以下のとおりです。

前中間連結会計期間(自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	要約中間連結 財務諸表計上額
	国内	海外	計		
売上収益					
外部顧客への売上収益	8,765	4,638	13,404	—	13,404
セグメント間の売上収益	5	—	5	△5	—
合計	8,771	4,638	13,410	△5	13,404
セグメント利益(営業利益)	1,457	127	1,585	△0	1,585
金融収益	—	—	—	—	3
金融費用	—	—	—	—	△232
持分法による投資損失(△)	—	—	—	—	△9
税引前中間利益	—	—	—	—	1,348
(その他の項目)					
減価償却費及び償却費	△520	△581	△1,102	—	△1,102
減損損失	—	△1	△1	—	△1

(注)セグメント間の売上収益及びセグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去及び未実現利益の控除によるものです。

当中間連結会計期間(自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	要約中間連結 財務諸表計上額
	国内	海外	計		
売上収益					
外部顧客への売上収益	10,013	5,377	15,391	—	15,391
セグメント間の売上収益	1	—	1	△1	—
合計	10,015	5,377	15,393	△1	15,391
セグメント利益(営業利益)	1,744	492	2,236	0	2,236
金融収益	—	—	—	—	92
金融費用	—	—	—	—	△254
持分法による投資損失(△)	—	—	—	—	△1
税引前中間利益	—	—	—	—	2,073
(その他の項目)					
減価償却費及び償却費	△523	△441	△965	—	△965
減損損失	—	—	—	—	—

(注) セグメント間の売上収益及びセグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去及び未実現利益の控除によるものです。